

2022年
(令和4年)

11月1日

(第三種郵便物認可)
昭和23年4月15日
毎月3回発行
(第1、第2、第3火曜日)

今号の特集

- ▷歳暮贈答品特集 ④～⑥面
- ▷レンジ対応食品特集 ⑦面
- ▷ペットフード特集 ⑧面

中部飲食料新聞社ホームページ
http://chuin.net/ (業界情報発信中)



味の素®は、うま味調味料です。
さとうきびの糖蜜を発酵させて
つくっています。

第3452号

発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5-18-9
電話 (052)571-7116代表
FAX (052)571-7118

東京局
東京都中央区日本橋横山町1-4-203
電話 (03)5614-7531
FAX (03)5614-7532

中部 飲食料新聞

大正から 食を伝えて100有余年

CVS大手3社

北海道共同物流を実験

台数・距離・時間短縮、CO2削減

公益財団法人流通経済研究所は、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(「スマート物流サービス」として2月に北海道で行われた「大手コンビニ3社(セブンイレブン、ファミリーマート、ローソン)による「チェーン横断型共同物流」の実証実験」)に関する研究結果を発表した。

今回の実験は店舗密度が低い地方として北海道が選出され、期間は2月21日から1週間の期間。「コンビニ各社の配送センター」間の物流の共同化「遠隔地店舗(買物困

全清飲

トラック輸送・運送者を取り巻く環境は「人手不足」や「高齢化」「長時間労働」「低賃金」「トラック調達の不足」など、深刻化している。さらに2024年問題と呼ばれる物流課題に対して、改善する取組みを開始、政策である令和4年度ハズオン支援事業に採択された「松阪鶏焼き肉の活性化プロジェクト」の事業主体となる丸井食品(三重工場及びNPO法人D.O.I.T)が、松阪をサポ

国分中部・国分G本社 三重県・松阪市活性化で連携

国分中部は、三重県松阪市及び国分グループ本社と松阪市の活性化を支援する包括連携に関する協定を10月12日に締結した。今後、3者のさらなる連携強化を進め、地域の食材や各種資源を掘り起こし、同市の魅力を生かした商品の開発などを通じて松阪市のさらなる活性化や持続的な発展を支援していく。

日清食品 安藤徳隆社長 国際高血圧学会で講演

京都市内で10月12、13日に行われた「第29回国際高血圧学会」において、日清食品の安藤徳隆社長が同社が取り組んでいる「完全栄養食」の研究について講演を行った。

東海農政局 3県令和4年産水稲作況指数101

東海農政局は、東海3県の令和4年産水稲の概況を発表した。

お多福醸造 大和工場 太陽光発電設備を導入

お多福グループのお多福醸造は、大和工場(広島県三原市)に太陽光発電設備を8月に導入した。

食知る辺 基準となる価格

飲料の自動販売機の価格が、徐々に下がっている。原材料高や円安などによる食品業界全体の価格改定の一つであるが、自動販売機の価格は基本的に業界全体で足並みの揃っていない。自動販売機の価格が一変したと実感する。

では運送力が不足してしまいがちで、トラックを追加配車することが高頻度で発生する。この場合などにおいても今回の実験の結果、「チェーン間の横断型物流の共同化」は前述の様な削減効果が期待される。

「遠隔地店舗(買物困難地域)の配送の共同化」の実証実験を踏まえ、各社及び様々なステークホルダーは、業界の新たな物流の形を検討していく考えにある。

「加賀棒ほうじ茶」は、石川県ふるさと認証食品を取得している油谷製茶による金沢発祥の伝統的な手法で焙煎加工した棒ほうじ茶を使用し、華やかな香りが楽しめる。好評を得ている。また、「TOCHIO」と「CRAF」ブランドとして商品を通じてその土地の文化や伝統を広げる思いを込めて展開している。

今年より「加賀棒ほうじ茶」の地元へ貢献できないかと検討し、油谷製茶が千里浜海岸を保全する活動に協賛企業として参加しており、同社は北陸エリアの「加賀棒ほうじ茶」の売上の一部に加え、「TOCHIO」と「CRAF」のブランドサイト内で応援ページを設けて、千里浜再生プロジェクトの紹介や同社社員が千里浜海岸での清掃活動を行った。さら

ポッカサッポロ 千里浜再生プロジェクトに賛同し寄付金を贈呈

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、石川県千里浜再生プロジェクトに賛同し、21年10月1日(22年9月30日の期間)に陸上エリアでの売上の一部(二五万円)を千里浜再生プロジェクト実行委員会に寄付した。

「加賀棒ほうじ茶」は、石川県ふるさと認証食品を取得している油谷製茶による金沢発祥の伝統的な手法で焙煎加工した棒ほうじ茶を使用し、華やかな香りが楽しめる。好評を得ている。また、「TOCHIO」と「CRAF」ブランドとして商品を通じてその土地の文化や伝統を広げる思いを込めて展開している。

この課題改善に向けた取組みについて、国土交通省は「トラックドライバの働き方改革の推進は、今後も持続可能な物流維持するうえで喫緊の課題。特に清涼飲料の物流は長時間の荷待ちや契約上不明確な付帯作業が

「完全栄養食」の研究を進めている。この「完全栄養食」を普及させること、好きなものを、好きなときに、好きなだけ楽しめる世界の実現を目指している。

今回の講演では「完全栄養食」の研究に至る背景や各種臨床試験の結果、また「完全栄養食」による高血圧患者や糖尿病患者のQOL向上を目指す取組み、フレイル予防を目指した取組みなどが紹介された。

東海農政局 3県令和4年産水稲作況指数101

東海農政局は、東海3県の令和4年産水稲の概況を発表した。

東海3県の作付面積は8万1500haで前年より600ha減、主食用作付面積は7万300ha、2100ha減少。水稲10aあたりは、前年より100kgの増収(9月25日現在の予想収量は100kg)が確認された。主要作付面積に予想収量を乗じた予想収穫量は1100tの減少。

東海3県の作況指数が100を超え、10a当たりの収量が500kgを超えるのは平成28年(2016年)以来となり、東濃を除いて天候に恵まれ順調に育つたと見ている。

お多福醸造 大和工場 太陽光発電設備を導入

お多福グループのお多福醸造は、大和工場(広島県三原市)に太陽光発電設備を8月に導入した。

お多福グループは、今後SDGsのリード工場を目指し、持続可能な社会の実現を目指していく。

食知る辺 基準となる価格

飲料の自動販売機の価格が、徐々に下がっている。原材料高や円安などによる食品業界全体の価格改定の一つであるが、自動販売機の価格は基本的に業界全体で足並みの揃っていない。自動販売機の価格が一変したと実感する。

自動販売機の価格が一変したと実感する。自動販売機の価格が世界で最も普及していると言われている。特に飲料自販機は夜でも明るく周囲を照らし、日本の治安の良さの象徴として海外から高く評価されている。

一方で自動販売機の維持には、商品補充の巡回やメンテナンスなど大きな労力があることはあまり知られていない。いつでも適温の飲料を購入できる素晴らしいサービスが受けられるには、裏で大きな努力があるのも知られて欲しい。

今後自動販売機は日本の良さを象徴の一つとして輝き続けていくだろう。少しだけ値段の上昇が缶コーヒーを飲みながら思う。

東海農政局 3県令和4年産水稲作況指数101

東海農政局は、東海3県の令和4年産水稲の概況を発表した。

東海3県の作付面積は8万1500haで前年より600ha減、主食用作付面積は7万300ha、2100ha減少。水稲10aあたりは、前年より100kgの増収(9月25日現在の予想収量は100kg)が確認された。主要作付面積に予想収量を乗じた予想収穫量は1100tの減少。

東海3県の作況指数が100を超え、10a当たりの収量が500kgを超えるのは平成28年(2016年)以来となり、東濃を除いて天候に恵まれ順調に育つたと見ている。

お問合せは、金印物産お客様相談室まで
フリーダイヤル 0120-021-887
https://www.kinjirushi.co.jp/

SGS FSSC22000 認証取得 (金印わさび株式会社)